

## 取り組み紹介書

施設 淡路栄光園	職場 氏名 (団体の場合は団体名 淡路栄光園 )
-------------	--------------------------------

**【タイトル】**

兵庫県事業「兵庫ケア・アシスタント事業」を通じた、引きこもり人材のトライアル雇用

**【課題】**

淡路市では2017年より「ひきこもり」問題検討委員会を立ち上げ、2019年には淡路市市民人権課に「ひきこもり支援担当者」を置くなど、ひきこもり状態にある方々の支援に力を注いできた。淡路栄光園は淡路市人権協議会岩屋支部理事として、この方々の生活や困りごとの実態を地域から耳にし、かねてより協力できることを模索してきた。

**【目的】**

2019年 高齢者や障害のある方々など、何らかの理由で地域との繋がりが薄れている方、社会参画にチャレンジしたい方に対し、兵庫県より社会福祉施設での就労トライアルという形で社会参加を促進する「兵庫ケア・アシスタント事業」の募集があり、この事業を通じて、ひきこもりの方々の支援を当園が実践することを目的とした。

**【方法】**

兵庫ケア・アシスタント事業に応募し、岩屋社会福祉協議会、民生委員協議会、岩屋老人クラブなどを中心に趣旨を説明。トライアル就労の希望者を募った。地域での説明会を実施し、外出の機会がほとんどない障害のある高校生、40代のひきこもり女性など4名の参加があったが、最終的に3名のエントリー。淡路栄光園では、就労に関するヒアリングや介護福祉現場で働くための教育研修、業務の抽出、作業手順のマニュアル化、職場までの送迎などの取り組みを行い、2019年10～12月までのトライアル就労を実施した。

**【結果・効果】**

2020年1月以降、3名のエントリー者の状況は以下の通り。

- ① 1月以降もアシスタントとして就労継続中。
- ② 高校生は、通信制高校卒業に向けて勉強に集中。卒業後の進路として福祉業界に興味を持ち、就職に対する自信にもつながった。職員との温かい交流もあり、双方にプラスの印象が残った。
- ③ 40代女性は、当初就労意欲が高かったが精神的な浮沈が多く、感情的なコミュニケーションや急な休みなど、就労の安定性が徐々に悪化し、最終的にはトライアル終了直前で終了となったものの、社会福祉協議会担当者からは、トライアルを契機に次の就職への意欲を話すなど意識の変化が見られるようになった。との報告をいただいた。